

登録コード	UAC18500	開講年度	2026				
授業題目	日本史研究			担当教員	山本 英二		
				副担当			
単位数	2	講義期間	後期	曜日・時限	水曜・1時限		
				授業形態	講義		
信大コンピテンシー	非該当						
(1)授業の達成目標	授業で得られる「学位授与の方針」			【授業の達成目標】			
	2 6 UAカリ・総人社・人間文化学， 2 5 UAカリ・総人社・人間文化学						
	【人間文化学】思想、歴史、社会、情報、言語、芸術など多種多様な側面を持つ人間文化に関する深い素養と幅広い理解を基盤として、その文化を継承し、柔軟な感性と創造的な論考により専門領域の問題を客観的・学問的に究明し、独自に理論を構築する能力や仮説を検証する能力を有する。			日本史研究に必要な知識と技能を獲得し、歴史的な思考ができるようになる。			
	【人間文化学】人間文化に関する文献・資料を収集・調査し分析・考察する人文学の伝統的な手法を身につけるとともに、他の学問分野の解析手法を併せて修得することによって、複雑多様化する現代社会の課題に柔軟な対応ができる応用力を有する。			日本史研究に必要な知識と技能を獲得し、歴史的な思考ができるようになる。			
	【人間文化学】高度な言語運用能力とコミュニケーション能力を基盤として、多領域のステークホルダーと協働し、現代社会の課題に取り組みながら、独創的かつ多文化共生的な英知の創成と提案を行う力を有する。			日本史研究に必要な知識と技能を獲得し、歴史的な思考ができるようになる。			
(2)授業の概要	近世日本における地域社会の構造について、信州を事例として分析・検討する。具体的には日本史近世史の地域社会論に関する学術図書・論文の講読，『長野県史』をはじめとする史・資料集の講読をおこない、史料読解にもとづく新たな近世史像の構築作業を進める。						
(3)授業計画	第1回 オリエンテーション 日本近世史研究と史料 第2回 テキスト講読：中間支配機構論 第3回 テキスト講読：藩社会論 第4回 テキスト講読：幕藩官僚制論 第5回 各受講生による中間プレゼンテーション 第6回 史料講読：『信濃史料』18～21巻を読む 第7回 史料講読：『信濃史料』22～25巻を読む 第8回 史料講読：『信濃史料』26～26巻を読む 第9回 史料講読：『信濃史料』27・28巻，補遺編を読む 第10回 史料講読：『長野県史』近世史料編 北信地方を読む 第11回 史料講読：『長野県史』近世史料編 東信地方を読む 第12回 史料講読：『長野県史』近世史料編 中信地方を読む 第13回 史料講読：『長野県史』近世史料編 南信地方を読む 第14回 各受講生による総括プレゼンテーション 第15回 まとめ 定期試験：おこなわない						
(4)成績評価の方法	e-Alpsの課題（50％），学術著書・論文の読解（10％），プレゼンテーション（20％），ディベート（20％）の総合評価。 得点率による評価基準は次のとおりとする。90％以上 秀、89-80％ 優、79-70％ 良、69-60％ 可、59％以下 不可。						
(5)成績評価の基準	【卓越している＝秀】日本史学研究法に関する基礎的な知識をもとに、論理的に思考し、批判的に分析し、自律的に考える力を総合して、極めて高い水準にある。 【かなり上にある＝優】日本史学研究法に関する基礎的な知識をもとに、論理的に思考し、批判的に分析し、自律的に考える力を総合して、非常に高い水準にある。 【やや上にある＝良】日本史学研究法に関する基礎的な知識をもとに、論理的に思考し、批判的に分析し、自律的に考える力を総合して、高い水準にある。 【その水準にある＝可】日本史学研究法に関する基礎的な知識をもとに、論理的に思考し、批判的に分析し、自律的に考える力を総合して、一定水準にある。						
(6)事前事後学習の内容	事前にe-Alpsで配布するプリントを予習すること。 事後には、e-Alpsへの授業内容に関する課題を提出すること。						
(7)履修上の注意	事前に十分に予習をして授業に臨むこと。						
(8)質問、相談への対応	オフィスアワー【水曜日12:10～13:00】						
【教科書】	『信濃史料』，『長野県史』近世史料編						
【参考書】	村上直編『日本近世史研究事典』（東京堂出版，1989年）						